



西山富三郎議員

町の経営方針は

町長 公平・公正に徹したい

問 ①経営改革にどう取り組むか。

②住民ニーズにそった満足度の高い政策実践は。

③まちづくりは「ひとつくり」である。「人間力」が「地域力」となる。どう取り組むか。

答 (森田町長)

①行財政改革を継続して

いく。町長、副町長、教育長の給与カットをする。協議が整わないとできないが職員の給与カットも考えたい。職員の削減、民間委託業務を進める。②町の総合計画や「大山恵みの里計画」に基づく事業の推進が第一である。町内各地域からの要望などは、財政と相談して決

めたい。公平公正な運営に徹したい。③適切な人事管理、異なる職場の経験など職員の育成に努めたい。人材育成の基本方針において次の事を定めている。1 町民の視点で、町民と共にまちづくりに取り組む職員。2 社会の変化を的確に把握し、新たな課題に柔軟に積極的に対応できる職員。3 豊かな専門知識や政策形成能力を身につけた実践力のある職員。4 優れた人権感覚と豊かな人間性を持ち、町民から信頼される職員。5 大山町の魅力を理解し、アピールできる職員。

政策提案の取り組みは

町長 町民の参画をいただきたい

問

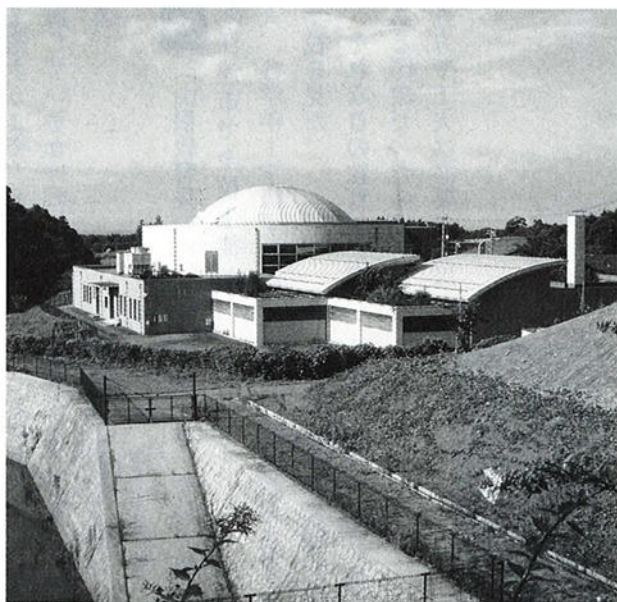
政策を提案するとき政策等の水準を高めるため、次に掲げる政策等の決定過程について説明すべきではないか。①政策等の発生源。②検討した他の政策等の内容。③他の自治体の類似する政策との比較検討。④総合計画における根拠または位置づけ。⑤関係ある法令及び条例等。⑥政策等の実施にかかわる財源措置。⑦将来にわたる政策等のコスト計算。

答 (森田町長)

これまで自治体に欠けていた、「政策立案」についての問いかけと考える。合併後の新町では総合計画等策定の段階で、町民の方の参画をいっただいでワークショップの形で練り上げをし議決を得た。中山温泉を利用した「温水プール」の発生源は一部の議員からの要望であった。介護予防施策の展開により医療費の削減に取り組んでいるがプール建設もその一つである。財政に見通しが立たなかつたが、国の経済対策補正により提案できた。伯耆町のプールなども参考にした。町の総合計画には「介護予防計画」を示している。2月の臨時議会では将来にわたるコスト計算が十分示されていないと受け止め中止を発表した。これからは政策立案において更に町民の参画や意見要望の吸い上げが必要であると考えている。政策形成に当たる職員の資質、能力向上も欠かせないことである。



指定管理施設「山香荘」



利活用が望まれる中山温泉